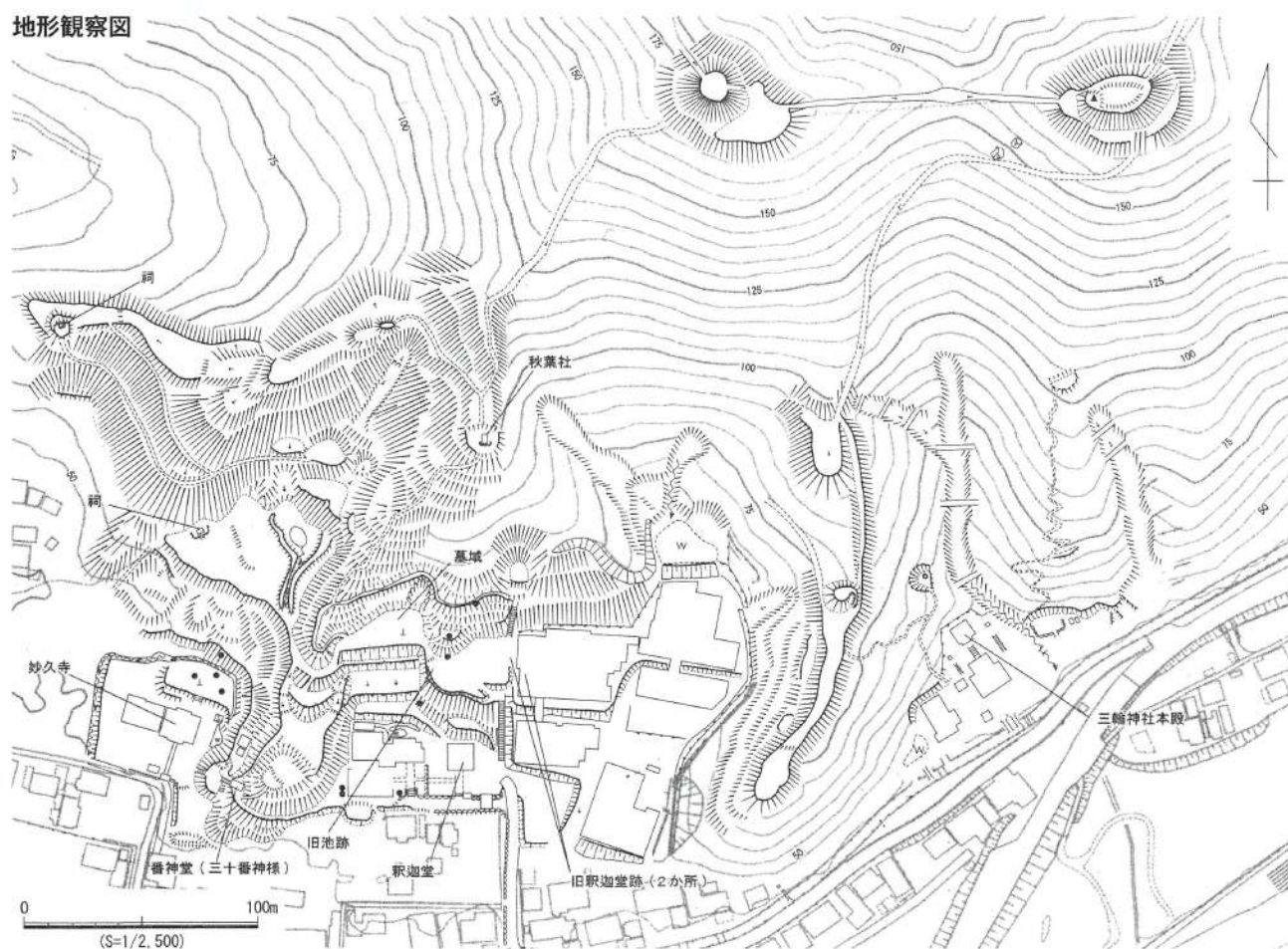


三輪山真長寺文化財保存会大より

令和7年9月1日発行 ●第59号 ●発行者：安藤征治 ●編集：三輪山真長寺文化財保存会

題字：真長寺前住職 三輪 醇證

地形観察図



三輪山真長寺地形観察図及び調査所見

岐阜県文化財保護センター提供資料

令和五年、岐阜県文化財保護センターより「岐阜県の古刹・古社と古代・中世寺院跡報告書」が刊行され、その中に「三輪山真長寺・地形観察図及び調査所見」が掲載されました。真長寺の歴史について周辺地形と関わりを考へることは興味ある内容であり、許可を得て転載させていただきます。

〔調査所見〕

真長寺は、岐阜市と関市の境、武儀川右岸に所在する通称「三輪山」の南側山麓に位置する。現釈迦堂の真北に旧釈迦堂跡といわれる広い平坦面が展開する。参道の石段の位置がこの平坦面の正面中央であるとすれば、東西長約九十mの広さがあつた可能性がある。旧釈迦堂跡の北西部は墓域に繋がる。墓域周辺は三輪中世墓として知られ、多数の石塔部材や河原石がある。墓域の北西尾根上に参道があり、墓域北の秋葉社から、西と東に参道が分かれ、西には尾根上に平坦面、東には標高山頂西側約一七八mと山頂部標高一七九・六mの地点の東西二箇所に平坦面が広がる。尾根上西端部には不動明王などの石仏とともに南東向きの祠がある。山頂西側の平坦面は真長寺山上遺跡(弥生時代・散布地)として知られている場所で、高低差のある二面を確認した。山頂部の平坦面から、真長寺境内の東側の尾根へ降りる通路が続き、三輪神社の境内に至る。三輪神社裏では、急傾斜の途中に小規模な平坦面を確認した。真長寺と妙久寺を区切る尾根の先端には、高さ約二mの高まりがあるが、詳細は不明である。妙久寺境内裏の山麓部には、緩やかな傾斜をもつ広い平坦面があり、近世以降と思われる祠や沼の排水路などを確認した。現在は雑木林となっており、地表面の観察は困難であつた。